一般社団法人日本色彩学会

学会活動に対する会員アンケート報告

2016年6月4日
理事会

アンケート調査実施概要

(1) 件　　名 ： 学会活動に対する会員アンケート
(2) 実施組織 ： 日本色彩学会
(3) 実施期間 ： 2014年11月～3月末日(回収期間を当初締切り12月末日より3月末に延長)
(4) 実施方法 ： 無記名式にて実施.
(5) 対　　象 ： 日本色彩学会会員
(6) 調査内容 ： 調査内容は次の項目から成る．

・回答者の概要
[会員種別，会員期間，所属・専門領域]
・回答者の活動状況
[活動研究会・関心分野]
・日本色彩学会の活動について
[主要活動の重要度，全国大会，秋の大会，AIC2015TOKYO，研究会，学会誌，学会誌の電子化配布，ニューズ，ホームページ，メーリングリスト化 と情報一斉配信，法人化，会費，満足度，活性化-若手会員増強策，意見・提言]

(7) 回　　答 ： 67名の会員より回答を得た．
全会員1536名(2015年3月31日現在)に占める回収率は4.4%であった．

■会員種別と会員歴

67名 （回収率：4.4% 2015年3月31日現在会員数：1536名）

正会員(名誉会員を含む) 63名(94.0%)

学生会員　3名

賛助会員　1名

■会員期間：平均 14.3年

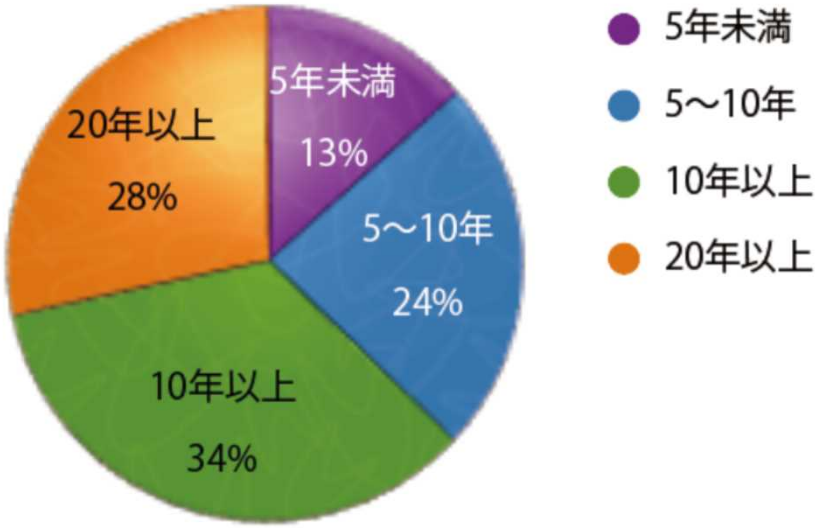
5年未満　9名(13.4%)

5年以上　16名(23.9%)

10年以上 23名(34.3%)

20年以上 19名(28.4%)

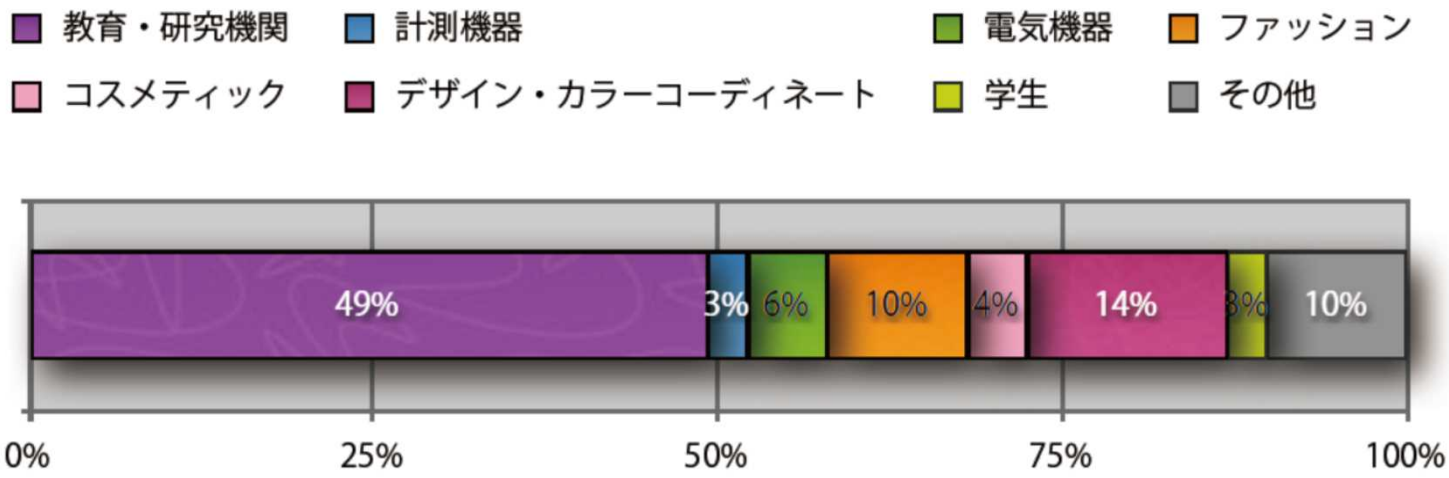
［図表1-2］回答者の会員歴（質問2：単数回答）



活動領域 ： 専門領域

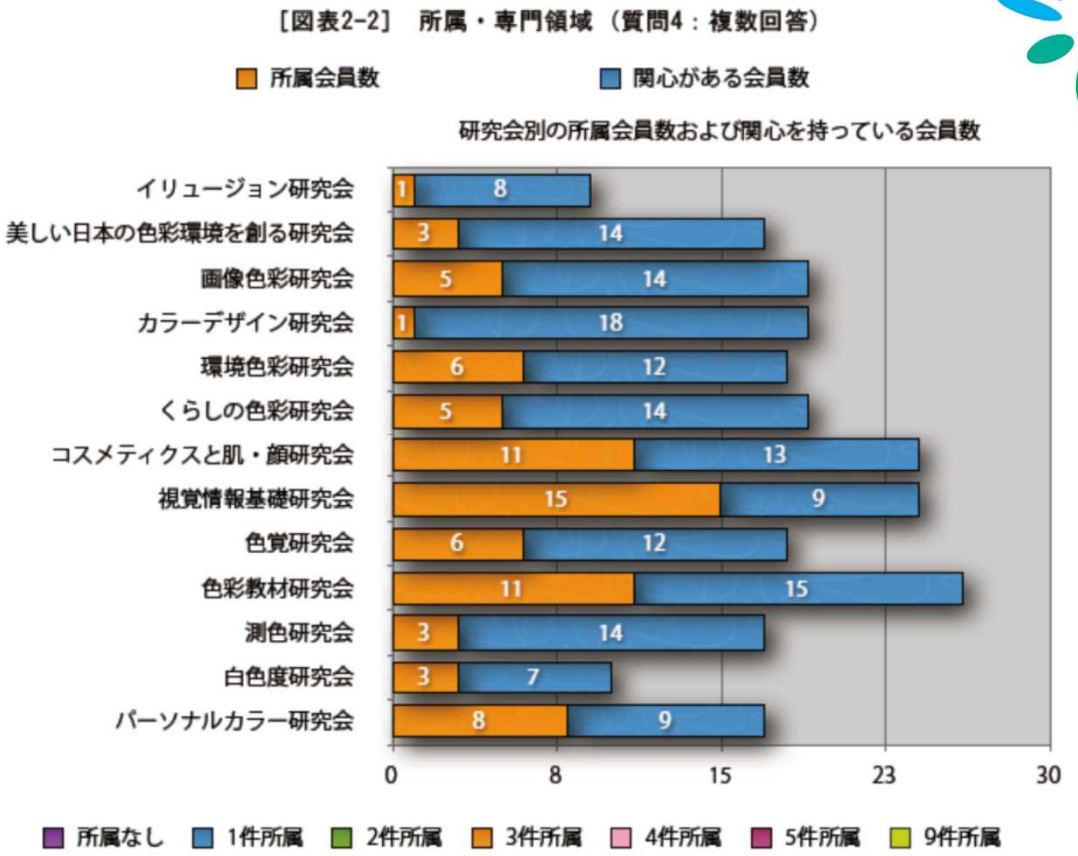
■教育・研究機関 34名（49 %）
■デザイン・カラーコーディネート 10名（15 %）
■ファッション 7名（10 %）
■電気機器 4名（6 %）
■コスメティック 3名(4 %）
■計測機器 2名(3 %）
■学生 2名（3 %）
■その他 7名（10 %）

［図表2-1］ 所属・専門領域（質問3 複数回答)



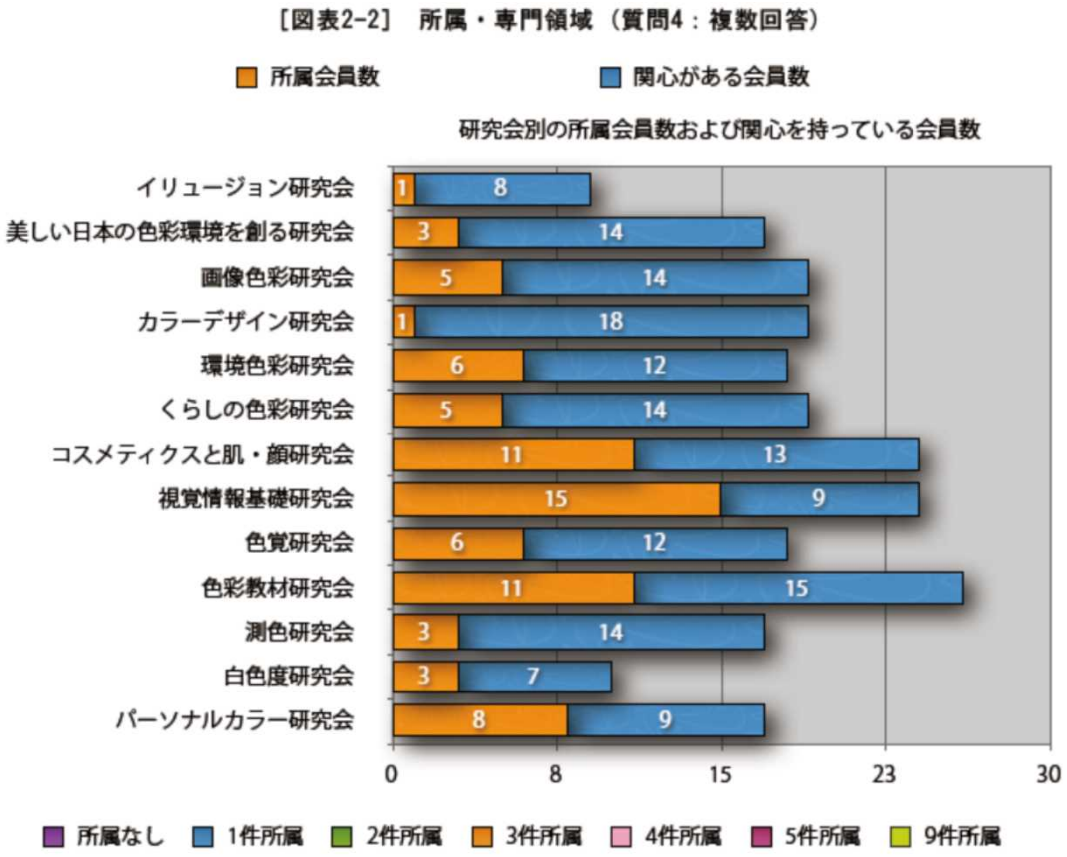
活動領域　：　所属研究会：

■視覚情報基礎　15名
■コスメティクスと肌・顔 11名
■色彩教材 11名
■パーソナルカラー 8名
■環境色彩　6名
■色覚　6名
■画像色彩 5名
■くらしの色彩　5名
■測色　3名／白色度　3名
■美 しい日本の色彩環境を創る 3名
■イリュージョン 1名
■カラーデザイン 1名
■所属研究会の数：なし 30名(44.8%)　1研究会　15名(22.4%)　2研究会 13名(19.4%)



活動領域　：　関心のある研究会（複数選択可）

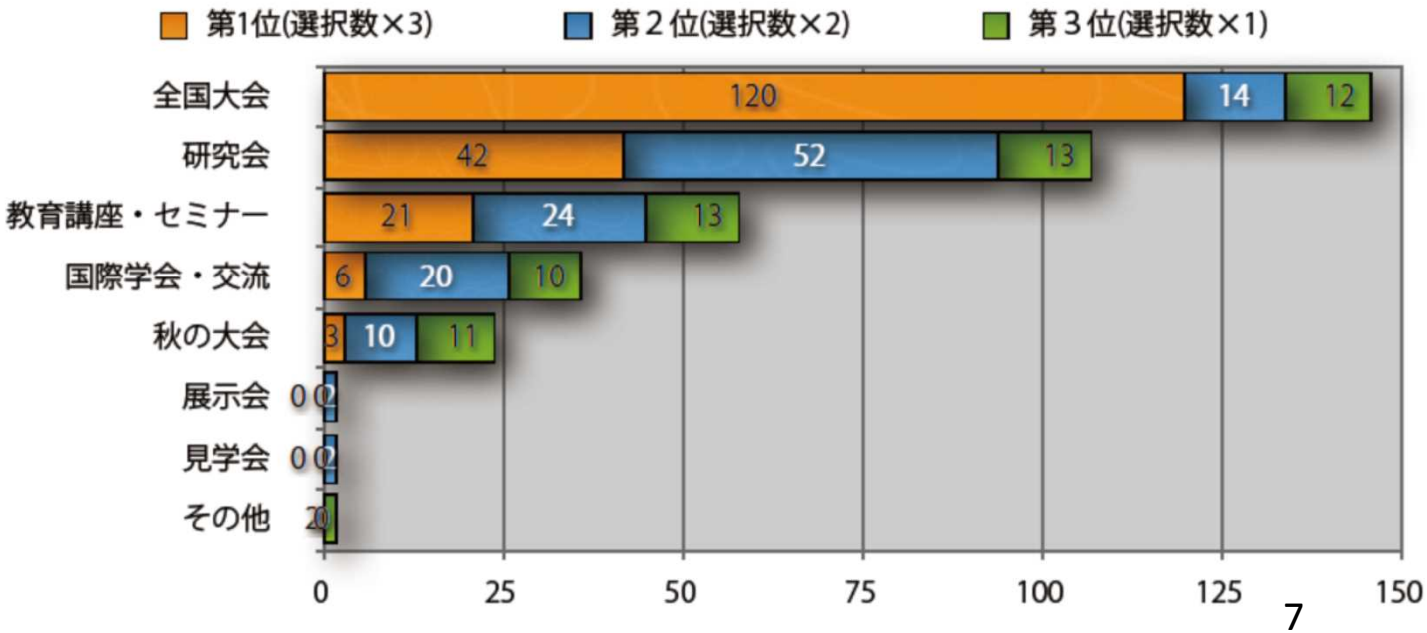
■カラーデザイン　18名
■色彩教材 15名
■測色 14名
■画像色彩 14名
■くらしの色彩 14名
■美 しい日本の色彩環境を創る　14名
■コスメティクスと肌・顔 13名
■環境色彩 12名
■色覚 12 名
■視覚情報基礎 9名
■イリュージョン 8名



学会活動 ： **主要活動の重要度**（支部活動は本調査項目に含まず）

1. **全国大会（39 %）**
2. **研究会（28 %）**
3. **教育講座・セミナー（15 %）**
4. 国際学会・交流（10 %）
5. 秋の大会（6 %）
6. 展示会（1 %）
7. 見学会（1 %）
8. その他（1 %）

［図表3-1］ 学会の重要な活動（質問5：順位回答）



全国大会について

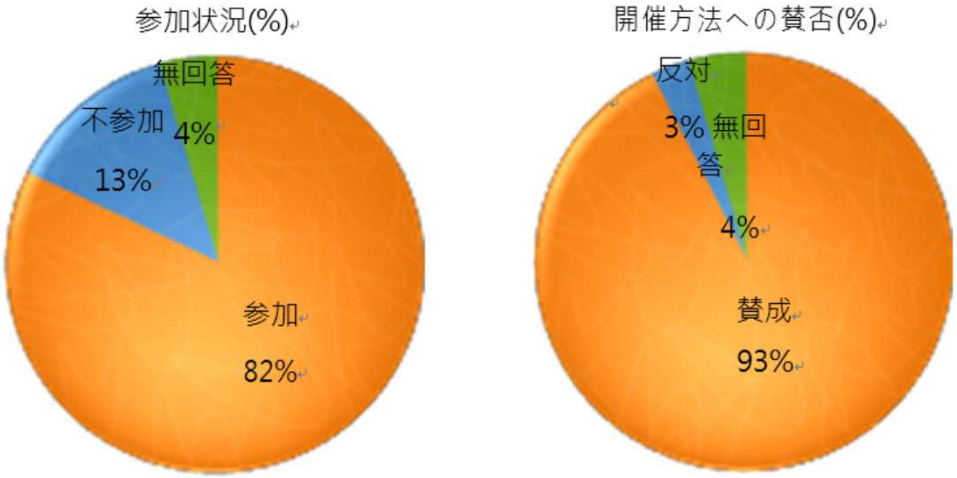
■参加したことがある 55名(82%)／参加したことがない　9名(13%)

■現在の開催方法(口頭・ポスター発表,特別講演,懇親会)
　賛成　62名(93%)／反対　2名(3%)

▼内容
　セレモニーより研究発表に注力
　ビジネスや生活に役立つ企業の応用研究増を期待]

▼運営
　・支部持ち回り見直しを
　・会員の運営負担考慮
　・エクスカーション専門委員会を
　・開催地 固定化

「図表 4-1」 全国大会参加状況および現在の開催方法への賛否（質問 6・7：単一回答）



秋の大会(研究会大会)について

■参加したことがある 29名(43%)／参加したことがない 37名 (55%)

■継続要否：**開催は必要 50名(75%)**／開催は不要 9名(13%)

■開催は必要
　発表，参加，交流，情報入手の機会(24件)
　学会活性化-活動アピール と会員獲得(5件)

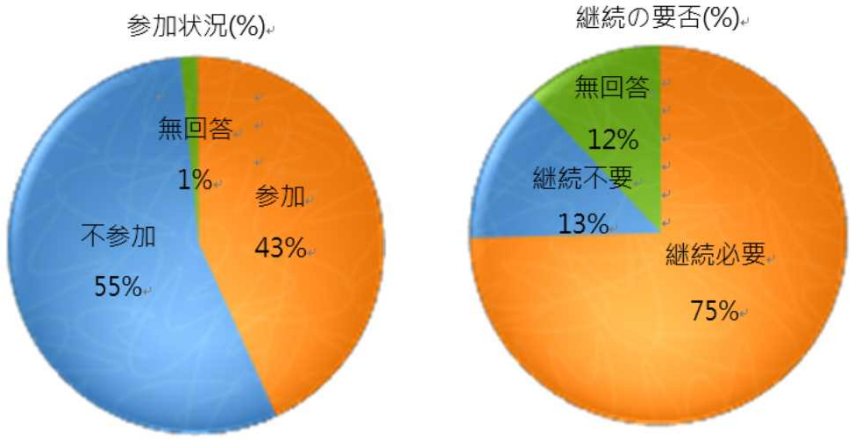
■開催は不要
　年1回が適当(6件)
　趣旨や運用形態が不明確
　組織体制や事務局機能整備が先決
　年1回秋の開催に／隔年開催も要検討]

■内容
　研究会発表の場に(5件)
　テーマやイベントに地方色を(7件)
　見学会・体験型・セミナー・初学者向け企画

■運営
　運営委員(会員ボランティア)の負担増憂慮(7件)
　研究会大会なら学術委員会が指針を示 し，指揮管理を

■質問
　秋の大会を機に入会した学生会員は何人いたか

「図表 5-1」 秋の大会参加状況および継続の要否 (質問 8・9：単一回答)

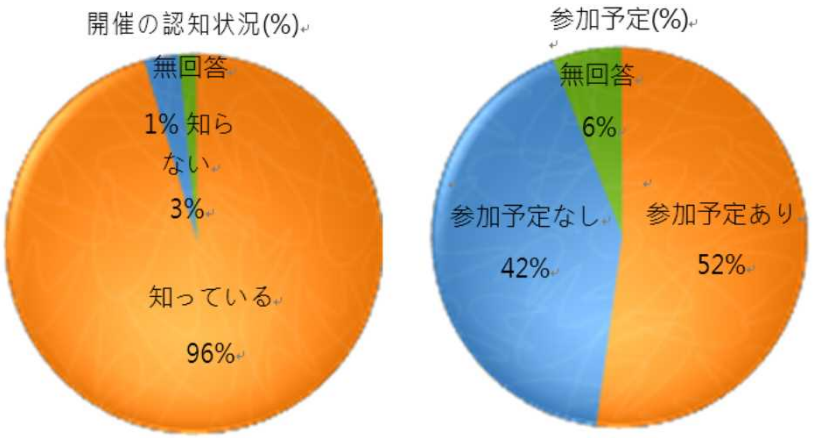


国際色彩学会　AIC2015 TOKYO（2015年5月／於:東京）

■開催周知
　知っている 64名(96%)　　知らない　2名(3%)

■参加予定
　発表・参加する 35名(52%)　参加しない 28名(42%)

■コメント
- 重点施策や効果予測が不明確
- 横連携不足で今なすべきことをバランスよく考え合わせる力量が無かった
- 結果的に何とか開催できそうだが今後はこのようなことがあってはいけない.



「図表 6-11」AIC2015 TOKYO の開催周知状況および参加予定

研究会活動について（1／2）

■全研究会の活動内容

知っている 46名（69%）　　知らない 17名（25 %）

▼活動周知

・所属しない研究会の情報は知らない（8件）
・参加の仕方が分からない（2件）
・会員への周知は学術委員会の役割では
・イベント情報が得にくい
・活動内容や履歴等は学会HPの各研究会専用ページで紹介を
（リンク切れ等で機能していない研究会が多いようだが）

▼成果発表

・活動報告や成果発表は学会誌や大会で会員全体に（5件）

▼学術委員会

・活動状況に応じて見直し再編を(5件)
・主査は大学教員等の研究者に
・発表促進を考慮した人選を(3件)
・活性化には学術委員会の充実が必要
・活動は各研究会の主体性に任せて
・活動期限や継続要件を(3件)
・後輩育成や研究レベル向上
・研究会の 位置づけや指針を明確に
・全国大会のタイミングでの主査会議開催を
・主査・顧問・幹事の負担軽減の仕組みを

研究会活動について（2／2）

▼活動運営

・活動が首都圏に集中し，地方からは参加しにくい.
・各支部等を拠点とする活動を（5件）
・年1000円程度の研究会会費徴収は認めて欲しい
・法人化後の会計処理基準(消費税や源泉徴収などの処理方法)を早急に示して欲しい

▼研究領域やテーマ

・色彩文化・芸術や社会的テーマの研究も評価して（2件）
・法人学会に相応しい学術性により社会貢献を
・世界的基準について日本が取組むべき課題を学会として絞りこむ
・学術研究由来派とカラーコーディネーター由来派の両派が交流できる環境作りの起点に
・自由なサークル活動の奨励と学者の応援を
・同好会的研究会がないように

学会誌について（1／2）

■内容

満足 40名(60%)　要改善 24名(36%)

■電子化配布

賛成 38名(57%)　反対 10名(15%)　どちらでも良い 17名(25%)

▼内容全般

・学会誌としての内容の充実が必要(2件)

・色彩学会らしい冊子であって欲しい

・学術誌とニューズのターゲットユーザを明確に分けて編集すべき

・会費値上げに繋がらないよう掲載内容の吟味，絞り込みを

・この薄さと大きさで中身が濃い

・興味ある内容が少ない

・連載物等も執筆者任せにせず論文同様に扱っては

・旅行記などは不要では

・支部報告は不要では

学会誌について（2／2）

▼論文掲載

- 論文数を増やす努力を(9件)
- 産業と結びついた現場サイドの論文掲載も
- 相応な論文掲載料を徴収する方向に改善を(2件)
- 文系論文も歓迎する姿勢を
- 学会が研究課題を提示し，応募者から選考により助成，表彰，賞金授与を行なう制度を

▼掲載希望

- 連載講座
- 国内外の色彩ニューズ
- 色彩情報
- 市場調査やトレンドカラー
- 美術展などタイムリーな話題
- 気軽に読めるコラム，エッセイ等
- 会員の著書紹介や書評
- 賛助会員報告
- 訃報

▼仕様・発行頻度

- カラー刷りに賛成(3件)
- コスト高なのでカラー刷りは反対
- この薄さと大きさが良い
- カラー刷りの方針を度々変更するのは印象がよくない
- 年6回発行を年4回として経費節減を
- ぜひA4サイズに
- 電子化に大賛成だが大会発表論文集は当日持ち歩きたいので紙媒体で欲しい(論文単位でダウンロードできるとありがたい)
- 全国大会発表論文集は電子版配布し，希望者には印刷版を有償頒布

▼その他

- 学会誌の要不要により年会費を変えてほしい

ニューズについて

■内容

・満足 50名(75%) 要改善 14名(21%)

▼掲載内容

・行事案内が直前過ぎる
・色に関するタイムリーな話題，会員の消息の掲載を

▼仕様と発行頻度

・電子化(広告はHPバナーで対応)と会員メーリングリスト化で毎月発行に(3件)
・発行遅れを無くして欲しい
・広告掲載費で賄えない場合は発行回数やカラーページ数調整で経費節約を
・コンパクトで読みやすい
・学会誌に一本化か綴じ込みでよい

ホームページについて

■閲覧頻度

・頻繁に見る 10名(15%)　たまに見る46名(69%)　ほとんど見ない　10名(15%)

■閲覧情報

・ What's New 28名(41%)
・学会活動　12名(17%)
・全部 1名
・規約 1名
・閲覧不可　1名
・研究会活動　19名(28%)
・支部活動 6名(9%)
・大会 1名
・バナー上位イベント 1名

▼掲載内容

・広報委員会が積極的に取材を
・更新の遅い研究会が多い
・私物化傾向のある研究会の専用ページには遺憾

▼仕様と更新頻度

・デザイン性や見やすさ改善でより魅力的に(2件)
・タイムリーな情報発信を
・Face book利用も

メーリングリスト化と情報一斉発信について

■一斉配信実施

- **賛成 53名(79%)**
- どちらでも良い 9名(13%)
- 反対　1名(2%)
- 無回答 4名(6%)

その他の事業活動（自由提言より）

▼資格検定対応

・多様化したカラー関連検定とのかかわり方の検討も

・その資格で就職が有利になることが重要

・受験者増(増収)ではなく有資格者が活躍できる社会環境を構築し，役立つ資格への改革を

▼収益事業

・出版物，教材や製品の開発販売，認証制度などを立ち上げ，収益で研究助成を

▼色彩データベース

・電子図書館の提案(理事会で検討を)

▼講座等

・論文の書き方講座(非学術系会員対象の連続講座)を

・エッセイの書き方講座(学術系会員対象に難しいことを易しく面白く書く訓練)を

・先輩の知識をもっと会員に伝えるイベント を

・参加しやすい雰囲気の講習会を

▼その他

・アニメの色彩設計ツール開発など日本の新しい産業界の応用研究を海外発信

・海外での日本の色彩設計の評価(例えば観光案内の色彩)

組織運営　：　法人化(一般社団法人)について

■法人化の要否

必要 50名(75%)　不要　7名(10%

■法人化の周知

知っている 64名(96%)　知らない　2名(3%)

▼意見

・手続きだけが優先し，運営という現実問題に正面から向かっているとは思えない．

・事務局長不在、理事の過剰業務，余剰金絶対的不足の緊縮財政のまま締め付けが増えれば，研究会の弱体化や退会者増は避けがたいのでは

▼質問

・法人化でなぜ学会が活性化するのか，活性化の具体的な方策を示してほしい

組織・制度について（自由提言より） 1／3

▼ 組織・人事

- 学会運営の見える化のしくみ作りを望む.
- 支部役員や委員会役員，研究会の顧問・主査・幹事の人選について一定の任期を設けるべき. いつも同じ顔ばかり見えるのはまずい. 入れ替えをして新鮮さと公平さを出し風通しの良い学会に
- **会長選出は選挙制に**
- **理事会，代議員の人選にも工夫を**
- 若手が積極的に学会運営に参加できる体制でないと発展は難しい
- 全国公平な支部配置を(東北支部検討を)
- 役員等の任期が短かすぎて一貫した戦略が立てられない
- 他学会での経験を活かし役員として貢献したい

組織・制度について（自由提言より）２／３

▼理事会

・理事会の最重要な役務は，今後のヴィジョンを描き，それに従って事業計画を立て実現を指図すること.

・理事会は学会のあるべき未来像を語り合う唯一の場であるから，事務的なことは担当者に任せ，本質を優先審議する基本姿勢の確認を是非お願いしたい

▼事務局機能

・事務局体制整備を

・事務局が機能し理事は活動方針を考えるという当然のことができていない．取り合えず企画されたものをこなすだけでは学会が良くなるとは思えない

組織・制度について（自由提言より）３／３

▼運営参加

・学会は研究できる環境を提供する組織であってほしい．学会活動の運営への参加で疲れてしまう．運営に参加したくなるような方法を再考してほしい
・AICの準備状況を見ると，あまりにも若い担当者の苦労がしのばれる．トップが耳を傾け，人材育成の観点でしっかり見守る姿勢が重要
・研究だけでなく学会活動を忍耐強く支えてきた会員の表彰制度を

▼経費削減

・予算がないなら理事や支部長への交通費全額支給の廃止を
・ウェブ会議を(交通費ゼ ロなら理事数を減らす必要もなくなる)

▼その他

・顧問弁護士，顧問税理士を置く(有料で会員も相談できるように)

会費について

（2015年現在の年会費:正会員10,000円, 学生会員4,000円）

■現在の会費は適正か

適正である 55名(82%)　適正でない 12名(8%)

▼会費相応メリットについて

・参加できる内容の行事が少ない(5件)
・研究会助成金の充実を
・研究費として還元を

▼会費減額について

・正会員年会費が高い(2件)
・学会誌電子配付で減額を
・学会誌不要者の減額を

会員満足度について

■満足度

会員になって良かった 60名(90%)　　会員になって良くなかった　3名(4%)

▼良かった理由

・交流の場(色彩関係の人脈,学際的交流,国際交流)が得られる(25件)
・知識(学術的な知見，ノウハウ)が得られる(11件)
・情報(最先端の専門分野情報，色彩動向)が入手できる(11件)
・研究・学会発表の場が得られる(5件)
・会員特典(学会誌配付，大会参加費，講演会参加費，東商講師認定講座受講料)が利用できる(2件)
・他会員や若手との接し方・ステータスシンボルになる (2件)

▼良くなかった理由

・研究支援(研究指導,共同研究の機会)がない(3件)
・賛助会員と会員との結びつきが薄く賛助企業が活かされていない
・極一部の会員だけに活用されている感が強い．学術的分野とインテリアやパーソナルカラーのようなソフトな分野が一緒に活動するのは難しいのだろうか
・社会貢献度が低い
・他学会に比べ気軽に参加できるセミナーや勉強会が少ない
・仕事や実務に役立たない

アンケートについて（自由提言より）

▼アンケート結果公表

・寄せられた質問や問題提起には出来るだけ具体的な回答の公表を希望

（アンケートに答えたのは無駄だったという印象は残さないように）

・これからもアンケートを１年に１回行ない，結果発表はニューズ等でしてほしい

▼アンケート実施の評価

・今回のアンケート調査実施に敬意を表す(2件)

活性化-若手会員増強策について（学会への提言-自由記述より）

① 会員増強策　1／3

▼色彩という学際的テーマの面白さをもっとアピールし，科学と芸術双方の活動が活性化すれば自ずと会員増に

▼入会目的・退会理由の把握．近年退会者が多い．増やす事を考える前に退会理由を明らかに．入会願いに学会に期待することを記入する欄を設ける

▼会費と会員特典

- 学生会費が高い(3件)
- 入会メリットを明確に
- 若者が価値を見出す特典のヒアリング調査を
- 研究室単位の学会員資格を設け，所属学生が学生会員扱いで研究会や全国大会に参加できるように
- 勉強会やセミナー参加費の割引を(4件)
- 本や資料の会員割引を

活性化-若手会員増強策について（学会への提言-自由記述より）

① 会員増強策　2／3

▼積極的な情報発信

- ホームページの活用(色彩トピック解説-専門家のコメントのアピール力は大きい．色彩について学べるコーナーを)(5件)
- ネット，SNS，Facebookなどソーシャルメディア活用による広報活動を(3件)
- マスメディア利用し，ファッション，美術界などに積極的に色彩の魅力をアピールしてカラー界を盛り立てれば学会員も増える(2件)
- 賛助団体・企業 に働き掛けてコラボの機会を多く持ち，産業界での貢献度を広く知らしめる
- 色に関する検定試験ホームページで学会を紹介
- 不特定多数ではなく色に興味を持っている若者に向けて情報を発信する
- 研究的側面から社会における色彩の重要性を発信し社会の関心を高める
- **学会誌 掲載論文のオープンアクセス化**で学会の存在を知る機会を作る

活性化-若手会員増強策について（学会への提言-自由記述より）

① 会員増強策　3／3

▼勧誘活動

・学生会員や企業内若手研究者の入会促進を
・研究会への非会員受入れを認め，研究会主査が若手会員をスカウトできるような仕組みを
・企業内研究者を引き込む戦略企画を(色材協会等の集客力との差は何か)
・役員は最低年に1会員増の気概を
・勧誘成果報酬の検討を

▼会員予備軍の育成

・体験型活動(若者が興味を持つテーマのセミナーやワークショップ)で学会　の「しきい」を低くし，興味を抱かせる(5件)
・色彩研究の面白さや重要性を学生や中高生に アピール
・中・高・大学への出張講義に学会員を派遣
・中・高生の部活に色彩研究会(学会員　がサポート)を
・若者を惹き付けるには専門性だけでなく趣味の世界への解放も必要

若手会員の育成と活動支援　1／2

▼人材育成・環境整備

- 若手会員に積極的に意見を聞き，学会誌特集や若い人向けのイベント等で同世代の人脈が得られる場が出来れば増えていくのでは(3件)
- 若手に手厚い環境を作るシニアになれば「次世代」に手厚くする流れができる(2件)
- 色彩基礎・実践講座など若手会員向けの講義と演習の機会を増やす(2件)
- 他学会の「若手交流会」ではコアメンバーと顧問の先生中心に3ヶ月に1回くらいの頻度で活発に勉強会を開いている
- やわらかいテーマの交流会（同交会）
- 見学会や研究会，支部研究会の平日開催

▼研究活動支援

- 日常的に一緒に研究に参加させる働きかけを行い初学者の発表機会を増やす(3件)
- 参加発表の場が支部→秋の大会→全国大会(国際学会)とレベルアップすることが学会活動の底上げと活性化に
- 研究会で共同研究の機会を与え，研究発表の促進を
- 地域単位で研究会を立ち上げて研究活動をサポートを
- 学生の発表者にあまり意地悪な質問はやめた方が良い-若手の意向を組んで発表を伸ばす十分な気配りが必要(2件)

若手会員の育成と活動支援　２／２

▼運営参画

- 役員若返りと女性の登用(2件)
- 研究会役員に若手会員を起用
- 学生や若手会員で運営する講演会やワークショップ等を開催(2件)
- 年に1度，理事会に学生代表を参加させて意見を聞く

▼就職支援

- 独自資格を設け仕事の斡旋ができれば理想的
- 全国大会を学生のリクルート活動に利用できるとよい
- 学会参加により企業に注目され，就職に有利になるような事例を作りたい．そのためにも企業参加を促進する活動を
- ポスドクの就職に繋がるような仕組みを
- ニューズなどで仕事(福祉活動でも良い)の紹介を

非研究系会員の参画

▼学会活性化と若手会員増加とはあまり関係ないのでは

▼研究系の増員は限りがある．今後の主要ターゲット(色彩文化を趣味とする一般社会人，デザイン・美術系の従事者)に向けた活動の充実が急務

▼ニーズの把握

・絶対多数の非研究系会員(過半数が女性)の求めを常に把握する必要がある

・非研究系の女性会員にはサロンのような組織とリーダーが欠かせない．受け容れ体制が整わなければ，がっかりして退会となる

・各支部で非研究系会員のニーズや活性化策の議論と提案を

・コーディネータ等の実務方向に学会が流れると若手が入会しないのでは

・色彩愛好者の裾野を広げる努力をしている色彩講師ら実務者の活動をもっと評価すべき

・カラーコーディネーター由来派にも門戸を開き，現場のノウハウをもとに研究者と組んで研究をする仕組みを

現在、取り組み始めていること

1) 全国大会は，支部の持ち回りから**理事会主導**に変更

2)「秋の大会」は研究会の発表会の場とし、**「研究会大会」**に変更
- 学会活動の重要度で「研究会」は「全国大会」に次いで第2位
- 「秋の大会」の内容要望で「研究会発表の場」という声が5件
- 研究会活動について「所属していない研究会の活動内容を知らない」という声が8件

3) 研究会大会に合わせて**主査会議**を開催
- 主査会議の必要性について1件

4) 全国大会発表抄録集の**電子化（CD-ROM配布）**
- 学会誌の電子化への賛成意見が過半数

5) 学会誌のカラー印刷の見直し

6) **Web会議**の積極的導入（H28年度より約9万円を投入してWebEx契約）
- 会議旅費を節約せよとの声1件　その他関連意見多数

7) **色彩講座**（H27基礎編、H28応用編）により、高度な専門的学修機会を提供

■今回のアンケート結果は学会誌に掲載する方向で進めています。

■また理事会と会員の間で、学会をより良くするための討論会のような機会が必要なときは、前向きに考えていきたいと思います。

■今後も種々のチャンネルで会員の声を取り込み、活性化した学会にしていきたいと思います。

一緒に日本色彩学会をどんどん楽しい学会にしていきましょう